

植物多様性センターの「ノキシノブの生涯」

学習園の太い樹木の幹に、シダ植物のノキシノブが着生しています。横に伸びる地下茎から披針形の葉をつけ、葉裏には特徴的な丸い孢子囊群が並びます。成熟した孢子は、樹幹のコケなどの中で発芽し、前葉体をつくります。よく観察すると、親株の周りには小さな植物体や、前葉体の受精した造卵器から伸び始めた赤ちゃんノキシノブも見つかります。樹幹という、ほかの植物の容易に生育できない厳しい環境に適応したノキシノブの生涯を観察できます。



自生状況: ケヤキの大木の北向きの樹皮のコケの中に群生



孢子囊群: 葉裏には中肋を挟んで2列に丸い孢子囊群が並ぶ



孢子囊群をつけた個体の近くには、多くの幼植物が見られる



前葉体: 半透明の前葉体から若い植物体を伸ばし始めたところ